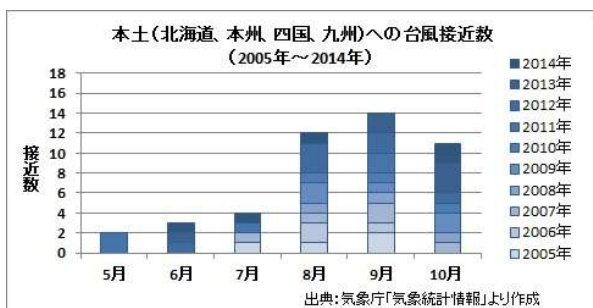


【9月1日防災の日：避難訓練実施～「押すな」「走るな」「声を出すな」～】

9月1日の「防災の日」は、昭和35年（1960年）に内閣府の閣議了解により、台風、高潮、津波、地震等の災害について認識を深めることを目的に制定された。また、昭和57年（1982年）からは、9月1日の「防災の日」を含む1週間（8月30日～9月5日まで）が「防災週間」と定められている。そもそも9月1日という日は、大正12年（1923年）9月1日に発生し、10万人以上の死者・行方不明者を出した「関東大震災」に由来している。また、気象庁の「気象統計情報」によると、台風接近・上陸は8月～9月にかけて多く、制定の前年である昭和34年（1959年）9月には、5,000人を超える死者・行方不明者を出した「伊勢湾台風」が襲来。このことから、この時期は防災について考える機会として全国各地で防災に係る取り組みが実施されている。（総務省統計局HPより）



本校では、「防災の日」である9月1日（木）1校時に大規模地震・大津波警報発令の危険が高まる中、生徒の防災に対する意識を高め、迅速な避難ができるようシェイクアウト訓練、グラウンド及び校舎3階への避難訓練を実施した。

訓練では、震度6の地震発生で校舎損壊の恐れがあり、その後大津波警報が発令されたという想定である。

まずは、地震発生により身の安全を守るためのシェイクアウト訓練（机の下の入り頭部等を保護）、そして、1次避難として授業教室等からグラウンドへ避難し人員確認、その後大津波警報発令により校舎3階に避難し再び人員確認。生徒たちは、各教室にあるヘルメットを被り、「押すな」「走るな」「声を出すな」の合言葉のもとに避難していた。特に大津波警報発令の2次避難では、本校は海拔7mという立地であり、3階フロアまでの高さを考慮すると海拔約15mとなる。東日本大震災級の津波の高さに十分耐えうる避難場所と想定しているが、その時々状況に応じて適切な避難場所、避難経路を考えていきたい。

講評では、教頭より「部活動の練習では手を抜いて試合で真剣になっても力が発揮できない。大学受験のための勉強を疎かにして目指す目標はかなわない。」と東日本大震災の教訓を忘れず訓練に臨む大切さや心構えを訓示した。自然災害はいつ発生するかわからない。生徒一人ひとりが自分の身を守る意識、そして率先避難者（困っている人がいたら声をかけて一緒に避難する）としての意識を高め、いつ発生するかわからない災害に備えて欲しい。

